

平成30年度 練馬区当初予算案が決定しました!

～総額2636億5800万円 主な施策と取組み～



① 子どもの成長と子育ての総合的な支援

- ・教育環境の充実(68億9300万円)
- ・保育サービス等の充実(27億円)
- ・支援が必要な子どもへの取組みの充実(3億3200万円)
- ・子育て家庭への支援の充実(1億4300万円)

② 安心して生活できる福祉・医療の充実

- ・高齢者が地域で安心して暮らせる仕組みづくり(10億9400万円)
- ・障害者支援の充実とユニバーサルデザインのまちづくり(2億9600万円)
- ・病床の確保による地域医療の充実(1億4800万円)



③ 安全・快適な都市の実現に向けた基盤整備

- ・災害に強い安全なまちづくり(22億7000万円)
- ・都市計画道路等の整備と無電柱化の推進(15億9000万円)
- ・大江戸線延伸の促進と延伸地域のまちづくりの推進(7億4500万円)
- ・西武新宿線立体化の促進と駅周辺地区のまちづくりの推進(7600万円)



④ 練馬区の魅力を楽しめるまちづくり

- ・特色ある公園の整備(44億300万円)



⑤ 新たな区政の創造

- ・区民参加と協働の推進(7100万円)



練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長
関口 かずお

議会運営委員会 委員

常任委員会 区民生活委員会 副委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… **関口かずお 事務所**

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

人生の本舞台を追い続けて

先の平昌冬季オリンピック・パラリンピックでの熱戦は、記憶に新しいところだ。四年に一度の戦いの場に立つこと、そしてそこで実力の限りを出し尽くすこと。競技中継や、選手たちのコメントを見ながら、その場に臨む重圧と、一瞬のために日々積み重ねてきた努力と時間をとおもつと同時に、ある政治家の言葉を思い出した。

その政治家とは、明治二十三年の第二回総選挙から連続二十五回当選、昭和二十八年まで六十二年間衆議院議員を務め、「議会政治の父」「憲政の神様」と呼ばれた、尾崎行雄(号堂)である。彼がそう呼ばれたのは、議会政治の黎明期から、依然残っている藩閥や軍部など、議会をないがしろにする勢力と対決してきたからだという。

昭和の初め、尾崎は盟友である犬養毅を、5・15事件で失い、療養中だった夫人も亡くす。自らも病床に伏して、打ちひしがれていた時、天啓のように、ある言葉が頭に浮かんだという。

「人生の本舞台は 常に将来に在り」
たとえ今、どんな苦境にあらうと、それを糧にし、前に進むこと。今、どれほど成功しているとおもえても

それに満足すれば、それ以上の成長はないこと。怪我や逆境にもがき苦しむその中にあることも、自らを奮い立たせメダルを手にした幾人もの選手たちの姿に、この言葉を、改めてかみしめた。

オリンピックと並べるのは少々気が引けるけれども、四年に一度、戦いを迎えるのは、地方議員も同じである。

自分自身、信念を持つて議員として生きてきたという自負がある。だが、時局や政局が、自分のおもわぬ方向に展開してしまうこともある。長く私を支えてくれた、志をともした、大切な人との別れもある。自分がこれまで大切にしてきた政治家としての「流儀」が、通用しない場面に遭遇することも多い。一体何を信じればよいのか、どうすればよいのかと、考え込んでしまうこともある。

そんな時、私はいつも、この尾崎の言葉をおもつ。なぜなら彼が、人生の本舞台を将来に見据え、軍部の台頭に再び立ち向かう闘志を奮い立たせたその時は、今の私と同じ、七十代半ばのことであったから。私なりの、区議会議員としての生き方で、前に、そして次に進むこと。私のこれからの目標である。

憲政記念館に掲げられる、九十四歳の尾崎がしたためた、「人生の本舞台」の書はまた、人生百年時代の心の支えでも、あるのだ。



揮毫



尾崎行雄